

売上不振で苦戦、依然先行きに不安

7月の業界WEATHER

全業種平均



前年同月比

概況

梅雨明けによる気温上昇等で、需要の低迷による売上不振や景況感の停滞が見られ、依然として厳しい経営を強いられている状況。また、一部の企業においては回復傾向にあるものの、企業間格差の拡大や企業間競争の激化が散見されており、先行きに対する不安感は依然として強い状態が続いている。

製造業	食料品		パンは早期の梅雨明け宣言や気温上昇で売上不振となる中、安売り店の出現で販売価格が下落傾向に向かい始めている。製麺は大手企業による市場の寡占化や、季節商品である素麺・冷麦等の需要減少で苦戦している。酒造は純米酒・純米吟醸酒の好調が続いており、全体として売上高・収益ともに増加している。
	繊維・同製品		桐生織物は婦人服地の秋冬物が例年並みに推移する一方で、輸出向けは低調に推移している。伊勢崎織物は小口商いが中心となっており、業況は依然として低調となっている。ニットは秋冬物の受注が増加傾向にあるも、受注時期の遅れによる今後の短納期要請や、生産期間の短縮による売上減少を懸念している。
	窯業・土石製品		生コンは公共工事・民間工事ともに大型物件が少なく、出荷量は対前年比で減少している。コンクリートブロックの出荷状況は悪くはないものの、需要の低迷で売上が若干減少している。コンクリート製品は建設工事における大手企業の安値受注による仕事量への悪影響を不安視するほか、企業間競争が激化している。
	機械・金属		SUBARU関連企業が好調に推移している反面、ホンダ関連企業は国内において厳しい状況。一方で、設備機器関連の受注増加が一部で見られるも、資金繰りの悪化で正規雇用の維持が困難になる企業が散見されている。鍍金は、自動車部品等の受注が比較的好調に推移している。
	その他の製造業		木材は原料が対前年比で増加するも、虫害により製品率が悪化傾向にある。印刷は原材料価格が下落傾向にあるも、需要の減少で売上が伸び悩み、厳しい経営状況が続いている。ゴムは一部企業において、新規設備の導入による売上増加が見られ、企業間格差が徐々に拡大している。
非製造業	卸売業		繊維・衣服卸は作業服やユニフォーム等の売上は比較的好調となるも、全体として景況感は悪化傾向にある。農産物卸は好天による生育順調で出荷が前倒しされたことで、市場は供給過多で安値相場となり、売上が減少している。水産物卸は暑さで売上が低迷しており、厳しい経営環境に直面している。
	小売業		燃料小売は需要が横ばい状態となるも、末端価格の上昇傾向で売上は増加している。自動車オークションは出品台数が前年を上回るも、成約率が伸び悩む。生花小売は販売価格が大幅に低下するも、売上増加には結びつかず。商店街はイベントやセールの開催等により、一部で客足が増加するも、売上不振で苦戦が続く。
	サービス業		温泉旅館はイベント等で入込数増加を図るも、素泊まりの需要増加等により、売上は減少傾向にある。不動産取引は伊勢崎市域において、価格帯や地区等でバラツキはあるものの、分譲住宅の取引が増加傾向にある。建築設計は公共工事における新たな公募方式の導入に伴い、設計者の更なる技術力向上が不可欠。
	建設業		解体工事は学校等の夏休み期間の工事で売上が増加するも、受注金額としては伸び悩んでいる状況。電気工事は気温が高い日が続く、冷房の需要が例年以上に高く、供給が追い付いていない状況。塗装工事は対前年比で売上が増加傾向にあるが、今後の仕事量確保をはじめ、先行きについて懸念材料が見られる。
	運輸業		天候不順等で荷動きが伸び悩むも、一部では車両の手配が困難になる場面も見られている。原油価格の上昇等により燃料価格が上昇しており、今後の価格動向に対する懸念が高まっている。小型運送は建築関係のリース等の輸送量が回復したほか、遠距離のスポット配送の増加により、売上高・件数ともに上昇している。

※本調査は、情報連絡員56人が所属する組合の全体的な景況（前年同月比）です。

県内の主な経済指標

- 鉱工業生産指数(季節調整値) 112.2(前月比+3.2%)「県統計課・6月」
- 住宅着工戸数 1,502戸(前年同月比+25.0%)「県建築住宅課・6月」

- 求人倍率(季節調整値) 新規2.11倍・有効1.62倍「群馬労働局・6月」
 - 大型小売店販売額 197億円(前年同月比+2.5%)「経済産業省・6月」
 - 消費者物価指数(全国) 100.2(前年同月比+0.4%)「総務省統計局・6月」
- 〈鉱工業生産指数は22年=100とした指数・消費者物価指数は27年=100とした指数〉